



建設／東京都／ベオエクベリ×有会社リフォームプロ

エコなアイデア満載！ リフォームの新基準

エコな住まいとは？ リフォームとは？ その二つの答えが都内のマンションの二室に完成した。施工主と施工会社、両方が語るエコの可能性。



リフォームプロ
2005年、リフォームプロ設立。住宅の改修と環境に配慮したリフォームを専門とする。10年連続「環境に配慮したリフォーム」の称号を授けられている。http://reform-pro.jp

ベオ・エクベリ
1987年、OneWorld建築事務所を設立。日本全国でデザインビルドの取り組みを行っている。建築家としての経験を活かし、建築家としての「入り口」が広がる。



デザインを犠牲にしないことも大事

「自然環境への配慮は大事だが、それで生活が苦しくなるとは意味がない。デザイン的にもいいものでない、ビジネスとして成り立たない」とエクベリ氏が語る。今回のリフォームではデザイン性を重視された。上の写真はみればわかるが、リフォーム後のほうが、部屋の美しさも増している。デザイン性や利便性が失われてはそもそもリフォームの意味がない。エコなだけじゃダメ。そのうえで「いいもの」じゃないと。

エコなリフォームはビジネスチャンス！

環境先進国スウェーデン出身。全国で環境とエコライフについての講演を行ない、各種メディアでもその必要性を訴えるベオ・エクベリ氏が都内の中古マンションを購入、リフォームをした。当然、ただのリフォームではない。

「こだわりはシンプルです。『自然に還す』ことができる以上に資源を取らない。『できるだけ地下資源を使わない』。この自然環境に基づいた二つのルールのもと、環境が推進したキーワード、WEHAB（下記参照）にのっとって進めていっただけ。みなさんにも真似してほしい！」

そう語るエクベリ氏だが、実際に施工を請け負ったリフォームプロの岡部崇二氏は、「目から鱗が落ちた。ベオさんと一緒にリフォームすることで、これまでわれわれが行ってきた自然素材をモジュールポイントにしたリフォームが、不十分だということに気づきました」と話す。

「具体的には資材の産地です。自然素材といってもどこで採られたものかメーカーも知らないし、施工する会社側もわからない。それが現状なんです。今回はそこを明確にしたいということで、われわれも勉強になりました！」

そんなリフォームプロを、エクベリ氏が選んだ理由とは？

「何社もまわったんですが、もっとも私の提案に乗ってくれたのがリフォームプロだったんです。」

エクベリ氏の提案に情熱をもって応えたりリフォームプロだが、そこにはもちろん「ビジネス的な算段もあった」と岡部氏は話す。「これはチャンスだと思ったんです。お客さまのあいだでもエコの意識は高まっています。そのニーズに対応できるような環境があれば、企業規模ではなく個性で勝負できる。近い将来、そうなりますよ。」

そうして始まったエクベリ家のリフォームでは、施工時から「モジュールポイント」徹底して冒頭の二つのルールが実践された。結果、完成したのはエクベリ氏も大

満足のエコハウスだ。

「エコロジーなポイント挙げれば100以上になる(笑)。でも、そのどれも難しいことじゃない。天井を少し高くするだけで、日光が入りやすくて、電気を使う時間が減る。合板のフロアリングやワックスコーティングするのではなく、天然の板でコートすることは健康にもいい。冷蔵庫を窓やガスコンロから離れたところに設置するだけで、消費電力が減り、CO₂が削減できる……」

環境に配慮したポイントが満載となった家だが、「いまは住みながら実際にどうがどれだけエコなのかを数値化しているところです。目標は一般家庭の半分以下の数値。光熱費でいえば半額に抑え、使用しているものでいえば石油製品の数を半分にするんです。」

ちなみに2LDKに二人暮らしのエクベリ家の電気代は、節約をせずとも2000円代。エコ・リフォームは施工する会社によってチャンスであると同時に、ユーザーの財力にもよるしだいである。

2002年のヨハネスブルクサミットで提案された、持続可能な社会に関するキーワード。今回のリフォームに採用されたアイデアは、すべてこの概念に基づいている。工夫の数々は「100以上はあります」とエクベリ氏。その一部を紹介しよう。

WEHABの概念でつくられた家

Water

水



貴重な資源である水の使用量を減らす工夫として、水栓は水を出しすぎないシングルレバーを採用。レバーを回すと中央部がフック部がある。そのため、気づかずに給湯機が着火することも防いでくれる。スウェーデン製シャワーヘッドは一般的なものに比べて70%節水できるもの。「真ん中の穴から空気を送り込み、水中にそれを含ませることで、水圧はそのままに水の使用量を減らすことができる」のだそう。

Energy

エネルギー



ムダな石油エネルギーを使わないように、内装はビニールやプラスチックを使用しないのが基本。さらに既存の窓にも一つ窓を取り付けることで、室内の保温性をアップ。当然、内側のサッシはすべて国産の杉材。天井の梁は直角ではなく、アールをかけた仕様にする。室内に日光を採り込みやすくしている。「スウェーデンでは一般的なテクニックで、圧迫感がなくなるのがポイントです」。

Health

健康



住んでいる人の健康に配慮することも重要だ。「体にいいとされている素材でも、施工に有害な接着剤を使っている場合、この家ではスウェーデンの「有害化学物質削減リスト」に掲載されている10種類の化学物質をすべて排除しています。スウェーデンではすでに法律でこれらのことが定められていて、アスベストと同様にこれからは日本でも、規制が厳しくなってくるはずだ」。

Agriculture

農業生産性

Biodiversity and ecosystem management

生物多様性と生態系管理

農業や生物、生態系を壊さないためには、使用している素材がどこで、どのようにつくられているのかがポイントになってくる。「木製だからエコ」というのでは森林伐採はいくらしてもいいことになる。そんなときにみてほしいのが、このFSC(森林管理協議会)マーク。この認定基準はもっとも厳しく正確で、森林や地域社会に配慮され、経済的にも持続可能な製品である証拠。わが家には床材をはじめ、いろいろなところにこのマークがあります」。

